

- 7月の米消費者信頼感指数は市場予想を上回り、2年ぶりの高水準に。現況指数が2020年3月以来、3年4カ月ぶりの高水準を記録したほか、期待指数は昨年1月以来、1年半ぶりの水準を回復した。
- 消費者信頼感指数の上昇が7月の米小売売上高にプラスの影響を与える可能性はあるものの、米小売売上高は足もとで鈍化傾向が強まっていることから、引き続き小売売上高の動向に注視が必要。

消費者信頼感指数は2年ぶりの水準を回復

25日に発表された7月の米消費者信頼感指数は117.0と、市場予想の112.0（ブルームバーグ集計。以下、同じ。）を上回り、2021年7月以来、2年ぶりの水準を回復しました。

内訳をみると、現況指数が2020年3月以来、3年4カ月ぶりの高水準を記録したほか、期待指数は昨年1月以来、1年半ぶりの高水準となりました。

現在の状況については、ビジネス環境が良好との比率は5カ月ぶりに低下したものの、雇用が足もと十分にあるとの比率は2カ月連続で上昇しました。

6カ月先の見方については、ビジネス環境が改善するとの比率や雇用増加を見込むとの比率はともに2カ月連続で上昇し半年ぶりの水準を回復しました。

このほか、今後6カ月に耐久消費財の購入予定があるとの比率は、自動車と住宅が2カ月ぶりに上昇したのに対し、大型家電製品は3カ月ぶりに低下しました。

足もとで鈍化傾向の米小売売上高の動向に注視が必要

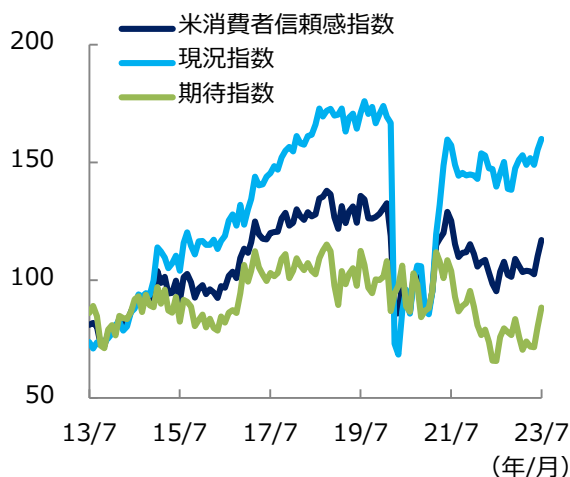
先に発表された6月の米小売売上高は前月比+0.2%と、市場予想の同+0.5%を下回り、3カ月ぶりに伸びが鈍化しました。

内訳をみると、主要13項目のうち、7項目が増加、6項目が減少しました。ガソリンスタンドが当月を含めた過去12カ月間で11回目の減少となったほか、食品・飲料や建設資材の減少が足を引っ張りました。

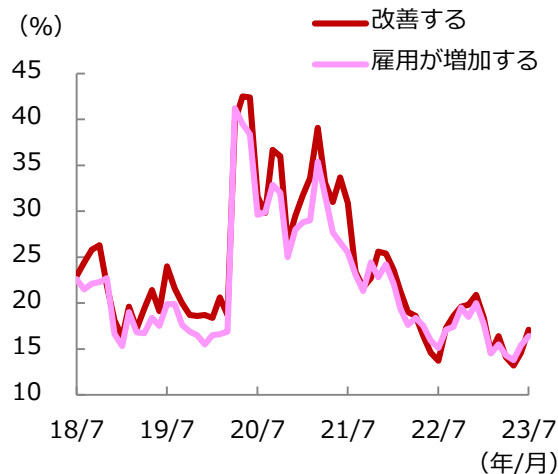
また、前年同月比では+1.5%と、2022年の平均である+9.9%を大幅に下回っているほか、当月を含んだ2023年の平均である+3.3%の半以下の水準にとどまっており、鈍化傾向が強まっています。

こうしたことから、消費者信頼感指数の上昇が7月の米小売売上高（8月15日発表）にプラスの影響を与える可能性はあるものの、引き続き米小売売上高の動向に注視が必要です。

米消費者信頼感指数の推移



6カ月先のビジネス環境*



出所：ブルームバーグのデータをもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去の情報および作成時点での見解であり、将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

※巻末の投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項を必ずお読みください。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※ 手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※ 上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。

費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※ 投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※ 税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。
3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。